

# 農業と科学

1981  
8

GHISSO-ASAHI FERTILIZER CO., LTD.

## ガーベラの栽培と

## ロングの肥効

長野県農業総合試験場  
花き専門技術員

成 沢 久

最近の切花消費の特徴の第1は、いわゆる洋花需要の増加につきる。ガーベラもそのなかのひとつで、今後期待のもてる種類といえる。ここでは取あえず、経営的な特長と品種ならびに施肥について述べ参考に供したい。

### 経営特性

栄養繁殖系大輪ガーベラは花の色彩が豊富であり、水あげがよく花の日持ちが長い。切花時期や購入後の室内環境にもよるが一般に2.5週、夏の高温期でも1週間余を觀賞することができる。

花の先進国のオランダではバラ・キク・カーネーション・フリージアにつぐ主要品目の座をしめ、1979年の市場出荷は1億7千万本、78億7千万円の生産額を上げている。このようにガーベラが急増している背景を、経営面からみると、労賃が高いため、投下労力が少なくすむ作目選択へ移行しているからである。

長野の施設花きの10a当り所要労力は、カーネーション400~450人/年、バラ200~250人/年であるのに対し、ガーベラは100人/年内外ですむ。こうみるとガーベラは施設切花のなかでは、省力花きの代表的品目といえよう。主な作業は植付・薬剤散布・灌水・葉かき・収穫出荷などで、ネット張りの必要はないし、灌水は自動化によるため、労働内容も軽労である。とりわけ切花栽培では、適期収穫が強く要求され、収穫適期を失うと、商品性価値が皆無になるものが多い。花き市場が休みでない限り、自由な休みをとることが容易でない。

カーベラの場合は、同一は場だと夏が2~3日毎、他の季節は3~4日毎の収穫でもよく、しかも無加温栽培で6月から11月に、1部加温すると、3月から12月まで連続出荷が容易である。高冷地の作期は5月から11月を主体に進めているが、だんだん作期が拡大されている。

なお経営費のなかでは種苗費の占める割合が大きく、10a当り6,000~6,600株の導入苗を要し、120万円の種

苗費になるが、2年栽培だと60万円内外になる。収量は1年目が6万本、2年目になると9万本内外、単価は30円から80円ほどで取引されている。これから消費の大衆化をめざすには、40円程度で十分採算のあう生産性の向上が望まれる。

### 品種特性

主要品種の特性を知ろうとして、53年8品種を導入し長野普及所・松代農協の協力をえて調査を実施した。

試験方法は松代町清野、中沢忠実氏は場、沖積層砂壤土に4月定植、床幅110cm、条間50cm、株間20cmの2条植え15cmの揚床とした。(現行標準は床幅70cm、条間40cm、株間20cmの2条植)

花梗長はロメオ・クレメンティン・ペロニカの順に長

表1 生育調査(2年生)

項目 品種名	葉長cm		花梗長cm		花径cm		花弁数
	10月	12月	10月	12月	5月	10月	
ペロニカ	57.6	39	18	61.9	11.5	9.9	56
アレドソグ	52.0	37	16	50.7	9.4	8.0	55
コンスタンス	60.0	34	17	57.1	10.6	9.5	76
ナッソー	56.6	31	19	61.2	11.4	8.5	54
ロメオ	58.6	47	22	69.4	10.4	9.0	46
ビートリックス	48.0	59	22	46.0	9.4	8.4	64
アブルプロッサム	44.0	45	26	47.9	10.0	8.4	54
クレメンティン	52.0	48	19	66.7	9.9	9.0	54

く、ビートリックスとアブルプロッサムは短かいが、商品性に影響はない。

葉数の10月調査は葉かき直前、12月は葉かき後の枚数である。株当り収量はコンスタンス、クレメンティンの順に多く、いずれも夏秋の収量は低い。ロメオ、ビートリックスは夏の高温期に奇型花の発生が多くみられたが、ペロニカ、クレメンティンは代表的な安定品種と思われる。なお成績を示していないが、黄色系ではイエロー

### <1981年8月号目次>

- § ガーベラの栽培とロングの肥効……………(1)  
長野県農業総合試験場 成沢久  
花き専門技術員
- § 海成砂質土のハウスマトと  
コーティング肥料の肥効……………(3)  
千葉県農業試験場 遠藤宗男  
土壌肥料研究室
- § 野菜の品種登録とその概要について……………(5)  
農林水産省農芸園芸局 西村昌巳  
種苗課 審査官
- § 深むし茶の生産地菊川町(静岡)を訪ねて……………(7)  
本誌編集部

表 2 収量調査 ( ) 1年目の収量

月	品種	ペロニカ	アレドソーグ	コンスタンス	ナッソー	ロメオ	ビートリックス	アブルブロッサム	クレメンティン
3		2.4	1.5	3.0	1.2	1.6	1.5	1.5	1.5
4		4.0	2.5	5.1	2.0	2.8	2.5	2.5	2.5
5		6.3	3.4	6.7	3.8	4.2	3.2	4.4	3.7
6		2.1(0.7)	3.7(0.4)	4.5(0.3)	2.7(0.6)	2.6(0.4)	2.1(0.7)	2.4(0.2)	3.4(0.5)
7		1.4(2.5)	3.4(1.8)	2.8(2.0)	2.0(2.0)	1.5(2.0)	2.2(1.5)	2.7(1.6)	3.3(3.2)
8		1.9(1.7)	2.3(1.5)	2.3(1.8)	1.9(2.2)	0.9(1.8)	1.3(3.3)	1.6(2.1)	2.6(3.2)
9		0.7(0.5)	1.3(1.2)	1.7(1.0)	0.7(1.0)	0.7(1.1)	1.1(2.2)	1.1(1.5)	1.7(2.5)
10		0.8(1.0)	0.9(0.3)	1.0(1.0)	0.7(1.3)	1.0(1.2)	0.8(1.7)	1.0(1.3)	1.7(1.6)
11		0.5(0.5)	0.7(0.8)	0.9(0.4)	0.6(0.5)	0.5(0.6)	0.3(0.9)	0.5(0.6)	1.1(1.1)
12		0.1(1.6)	0.3(1.0)	0.1(0.5)	0.3(0.7)	0.2(0.7)	0.2(1.0)	0.2(0.7)	1.0(1.1)
株当たり計		20.2(8.2)	20.0(7.0)	28.1(7.0)	15.9(8.3)	16.0(7.8)	15.2(11.3)	17.9(8.0)	22.5(13.2)

モアの生育開花が順調である。品種特性調査は引続き3年目を実施中で、経済的栽培が成立しようである。

肥 料

品種同様わが国ではカーベラの施肥に関するデータがない。そこで長野普及所白石技師(現農業技術課)がコーティング肥料ロング360の肥効と、窒素の適量を明らかにするため展示ほを設置した。そこで丑山専技らと協力し、一応の成果をみる事ができた。

試験場所は篠ノ井鈴木政太郎氏は場、沖積層・壤土転作田。供用品種はクレメンティン、試験区は1区25m<sup>2</sup>2区制とし、窒素20. 40. 60kgをロング360を全量元肥に施用、慣行区は磷硝安加里を施用した。

表 3 生育調査

区名	項目	6/3	7/1	8/4	9/1	10/1	11/11
1. N20 kg	葉数枚	5.8	10.4	16.6	20.2	19.4	25.9
	葉長cm	19.9	35.2	44.7	44.0	45.7	44.4
2. N40 kg	葉数	6.5	12.3	18.6	22.4	22.3	31.4
	葉長	19.6	36.4	45.5	46.0	47.2	45.5
3. N60 kg	葉数	6.3	10.6	17.7	19.7	18.6	25.5
	葉長	19.1	34.0	42.0	42.4	45.7	45.1
4. 慣行	葉数	6.4	9.1	16.3	17.9	21.5	24.2
	葉長	16.3	33.4	42.1	42.2	44.3	43.3

表 4 収量調査 25m<sup>2</sup> 当り本

区名	1 N20kg	2 N40kg	3 N60kg	4 慣行
A	726	940	913	663
B	773	912	927	789
平均	749	926	920	726

その結果、窒素20kgでは葉色がややあわく、草姿の活力に欠け、窒素60kgは出葉数がやや少ない傾向が見られた。1~3区の土壤中におけるPH・EC・T-Nの経時変化は比較的安定しており、ガーベラの元肥にコーティングロング360は有効なことが認められた。施用標準は窒素換算10a当り40~50kg内外でよさそうである。

図 1 pHの経時変化

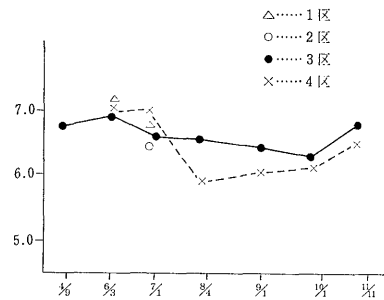


図 2 ECの経時変化

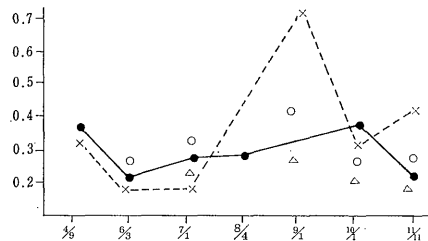
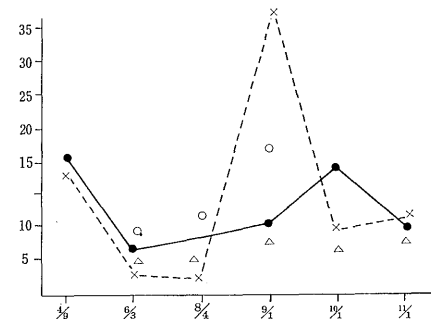


図 3 T-Nの経時変化



なお肥培のなかでは定植後の一斉活着対策、適量灌水、葉かきの随時例、オンシツコナジラミ、ネグサレ病、エキ病、灰色カビ病などの早期防除、室内の適温管理などを総合的にすすめ、生産の安定をはかりたい。